

一、開会の挨拶

司会者 安 世舟

これから、国際比較政治研究所第六回公開シンポジウムを開催致します。本研究所には五つの研究班があつて、その一つ一つが順ぐりに公開シンポジウムを毎年主催することになっております。今年、「アジア・太平洋地域の国際比較政治研究班」が中心となつて、香港返還後の中国と東南アジアの国際関係について掘り下げて検討することになりました。

皆さまもご承知のとおり、香港が今年、中国に返還されました。それは、百五十年間の植民地時代、いわゆる帝国主義時代が終焉したということ、内外に象徴する事件でもありました。他方、香港の返還は、中国が世界政治において、いわゆるジャイアント（巨人）として登場してきたということを内外に示す一大イベントでもあったと思います。そういうことで、香港返還後の中国と東南アジアというテーマで、今日は、中国の専門家の太田勝洪先生、それから、東南アジア政治の専門家の田中恭子先生をお招きいたしました。基調講演を一時間づつ承り、その後、本学のそれぞれの分野で学外に知られている、中国政治の専門家の近藤先生と、東南アジア政治の専門家の黒柳先生が、本研究所の専門研究員の立場からそれぞれコメントしていただいた後に、フロアからの質問を受け、それに各先生がお答えになるという形でのディスカッションをしていただいて、だいたい五時に終える予定であります。

両先生の基調講演を承る前に、両先生のご紹介を簡単にさせていただきます。まず最初に講演していただきます太田先生は、現在、法政大学の法学部教授です。と同時に、社団法人中国研究所理事長を兼ねていて、名実ともに本学の近藤先生とともに中国研究の第一人者です。共著で大修館から『中国百科』という大著を出しておられ

ます。次に基調講演をしていただきます田中先生は、現在、静岡県立大学教授です。静岡県立大学といえば、最近、国際政治問題について、テレビで多数活躍する先生方がおられる大学です。従って、現在、同大学は国際政治、国際関係の研究の日本におけるメッカといわれております。先生は、同大学で東南アジアの政治を講義しておりますが、著書としては、中公新書の『シンガポールの奇跡』、それから、名古屋大学出版会から『土地と権力』という著作を出しておられます。静岡県立大学に就任なさる前は、国際基督教大学の学部と大学院を卒業なされた後にオーストラリア国立大学で博士号を取得し、国立シンガポール大学助教授、そして中部大学教授を経て、現在の静岡県立大学に移られています。以上で、簡単ですが、両先生の紹介を終えます。申すまでもなく、コメントをして頂く本学の近藤先生、黒柳先生は、紹介するまでもないと思います。ですから、省きます。

では、まず最初に、太田先生、基調講演をよろしくお願いいたします。